

## 道東の観光船

個人会員 福富 廉

北海道の船と言えば、本州との間の大型フェリーや利尻・礼文島等の離島航路がすぐ頭に浮かぶが、自然豊かな地域であり、海岸沿いや湖沼に多くの観光船が運航されている。

ここでは、最近訪れた道東（網走支庁、釧路支庁、根室支庁、十勝支庁）の観光船についてそのほとんどを確認できたので、基本的に定時出航の一般乗合船を対象とした網羅的なレポートを作成してみたい。

ちなみに、ほとんどに最低運航人員が設定されているので、海象が良くても出港しない場合があるが、昨今のコロナ対策でのお得なクーポンや、あるいは北海道民を対象としたこうしたアクティビティへの補助もあるようで、そこそこ賑わっており、天気にも恵まれて、その多くが運航されていた。

ここでは、北海道旅客船協会発行の小冊子「北海道の船ガイド」の掲載順と名称に準じて記載する。【ただし、(★)は「北海道の船ガイド」に記載無し】

### 1. ウトロ港発着沿岸航路

知床半島北側のオホーツク海を航行し、知床半島のダイナミックな景色と沿岸に出没するヒグマを海上から観察することが目的の遊覧船。約1時間の短距離コース、ヒグマの出現確率の高いルシャ湾付近まで2～2.5時間で往復する中距離コース、知床岬突端で折り返してくる3～4時間の遠距離コースの3コースがメインで、就航期間はおおよそ4～10月の間。大型船（総トン数約500GT）と小型船（ほとんどが20GT未満）の2種類があり、中でも小型船の中長距離コースでのヒグマの遭遇確率は90数パーセントを誇っていて人気が高く、今回も観察することができた。

#### (1) 道東観光開発

冬期に網走港発着の流氷観光を行う砕氷型観光船「おーろら」と「おーろら2」が夏期にはこの航路に従事している。500GTの大型船なのでゆったり景色を楽しみ、船酔いしにくいことが売りであるが、あまり沿岸に近づけないので動物に遭遇する機会は限られており、団体予約等が無いと運航されないこともあるようである。



「おーろら」491GT 1990年檜崎造船建造



「おーろら2」489GT 1995年檜崎造船建造

(2) 丸は宝来水産（ゴジラ岩観光）

ウトロ港発着と羅臼港発着の両方を運航する会社。ウトロ港内にゴジラの形ソックリの巨大な岩がある。



「カムイワッカ 55」14GT 速力20ノット アルミ

「カムイワッカ 88」19GT 速力20ノット アルミ

(3) フォックス



「FOX FIVE」長さ17m 乗客定員50名 HORIZEN YACHT社（台湾）製  
(4) ホワイトリリー旭川（知床クルーザー観光船ドルフィン）



「DOLPHEN III」19GT 乗客定員48名 最大速力30ノット

(5) 知床遊覧船 (★)



「KAZU I」 乗客定員 65 名



「KAZU III」 乗客定員 60 名

2. 羅臼港発着沿岸航路

知床半島の南東側、国後島との間の根室海峡を、クジラやシャチ、海鳥等の自然生物を探しながら航行する観光船。したがって、決まった航路は無く、当然のことながら国後島との間の中間線は超えない範囲で船を自由に航行させていた。その目的から、船の電子機器の豊富さに驚かされた他、他社船と協調して（いるように見える？）航行する姿が珍しかった。こちらは、冬場（1～3月）の流氷クルーズも有る。

(1) 丸は宝来水産（ゴジラ岩観光）



「カムイワッカ号」 18GT 速力 20 ノット FRP



「カムイワッカ 33」 (チャーター使用か?)

(2) 知床アルラン



「アルラン三世」 乗客定員 47 名

### (3) 知床ネイチャークルーズ



「EverGreen38」 19GT

令和 2(2020)年 1月 厚岸港の運上船舶工業建造の新造船



「EverGreen」 2006年建造

19GT 速力 17ノット 旅客定員 50名 アルミ

### (4) 観光船はまなす (★)



「はまなす」 19GT 速力 17ノット 旅客定員 60名 アルミ

### (5) その他 (★)

定期・一般乗合の条件に合致するので記載するが、地元のパンフレットで見つけたもので、夏期は羅臼から知床岬方向に行った道路の終点・相泊港から知床岬巡りあるいはクジラ・イルカウォッチング、冬期には羅臼港から流氷・オオワシウォッチングクルーズを行っているようだ。オープントップのトイレの無い小型船なので、どれだけの就航率があるのか知りたいものである。以下の(a)~(c)以外も有りそうだ。

#### (a) 知床ユーシン観光

【写真は同社のパンフレットより】



#### (b) 知床らうすリンクル

【同社 HP より】



(c)世界遺産クルーズ英人丸（ひでとまる）

前記(a)(b)とほぼ同様の内容であるが、こちらには、相泊港から知床半島の反対側のルシヤ湾まで行く知床岬半周コース（4～5時間）の設定があり、いつか挑戦してみたいと思っている。



「第二十六英人丸」定員 12 名



「第五十六英人丸」定員 12 名

【どちらも同社のパンフレットより】

### 3. その他の沿岸航路

(1) オホーツク・ガリンコタワー

船尾プロペラに加えて、船首にアルキメディアンスクリュー2基を搭載した三井造船製の砕氷船。現在は、紋別港発着の冬期の砕氷クルーズが有名だが、夏期の遊覧クルーズ／釣りクルーズにも利用されている。



「ガリンコ号2」(2018年3月)



【参考】ふね遺産「ガリンコ号(1)」(同左)

(2) あばしりネイチャークルーズ

網走港発着のクジラ・イルカ・海鳥等の探索クルーズ。4～10月に1日2回運航。



「チバシリ」長さ 10.45m、速力 25 ノット 【同社 HP より】

### (3) 別海町観光開発公社

尾岱沼漁港から野付半島トドワラ桟橋までの野付湾の自然観察クルーズ。4～10月に運航。



「パワードリーム」 船客定員 92 名、速力 19 ノット



「レインボー」 船客定員 79 名、速力 19 ノット

【上記 2 枚の写真は同社 HP より】

## 4. 港内遊覧船

### (1) アイコム (BAY LOUNGE)

釧路港でピクニッククルーズ、サンセットクルーズ、ナイトクルーズ等を行っている。夕日が有名だそうで、夕日が見られなかったら次回半額というのが面白い。乗り場は、釧路フィッシャーマンズワーフ MOO の向かい。



「SEA CRANE」 船客定員 52 名

(2) 協立海上運輸 釧路港内

(3) 中野通船 釧路港内



協立海上運輸「とも丸」 12GT



中野通船の所有船

【両方とも写真は北海道旅客船協会「北海道の船ガイド」より】

## 5. 湖沼

### (1) 阿寒観光汽船

マリモで有名な阿寒湖、天気良ければ、雄阿寒岳／雌阿寒岳を眺めることができ、ジャングルクルーズの様をなす景勝地滝口への進入とマリモ生息地近くのチュウルイ島のマリモ展示観察センターに15分下船観光する一周75～85分の航路はとても素晴らしい。景勝地滝口の様子は、佐世保の九十久島観光船で進入する松浦島に似ている。8月からの夜間イベントで乗船することができた他、4月には湖上の氷を砕いていく1週間だけの砕氷帯観光遊覧が行われているようで興味深い。



「ましゅう丸」(まりもの里棧橋にて) 昭和52年釧路重工業建造



「すずらん丸」(同左)



左から、「まりも丸」、「観光丸」、屋形型旅客船「くろゆり」

### (2) 然別湖畔温泉ホテル

北海道で一番標高の高い湖の遊覧船。標準コース(40分)の他、早回りコース、モーニングコース、ナイトコース等がある。



「いさを」【同社HPより】



【北海道旅客船協会「北海道の船ガイド」より】

(3) サロマ湖アザラシ観光船（北見自動車検査センター）

日本で3番目、北海道で一番大きい湖でかつ日本で一番大きい汽水湖であるサロマ湖の遊覧船。一周コース、栄浦コース、ワッカコースがある。



「あざらしⅡ」 旅客定員 42名  
【同社 HP より】



(旧船)「あざらし」  
【北海道旅客船協会の HP より】

【付録】 支笏湖観光運輸

支笏湖は道東ではないが、ちょっと立ち寄ったので紹介させていただくことにする。船底から湖中の魚や湖底の柱状節理を見ることができる。



潜水艦タイプの水中遊覧船「サファイア」  
旅客定員 50名



水中遊覧船「エメラルド」  
旅客定員 50名



「サファイア」の水深 2m の水中窓